

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第15週（4月12日～4月18日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 大幅に増加」

第15週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,666例であり、前週比32.5%増であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.95、3.19、0.66、0.35、0.15であった。

感染性胃腸炎は前週比24.4%増の770例で、南河内7.94、泉州5.45、三島4.65、大阪市南部4.50、大阪市北部4.29であった。

RSウイルス感染症は53.8%増の623例で、大阪市北部8.00、南河内5.56、北河内4.68であった。

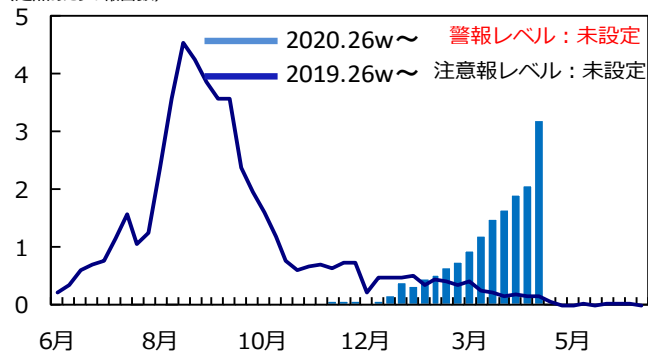
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は25.2%増の129例で中河内2.05、泉州1.05、大阪市南部0.89であった。

咽頭結膜熱は前週と同数の30例で、大阪市北部0.57、中河内0.40、泉州0.20であった。

RSウイルス感染症

感染性胃腸炎

(定点あたりの報告数)



(定点あたりの報告数)

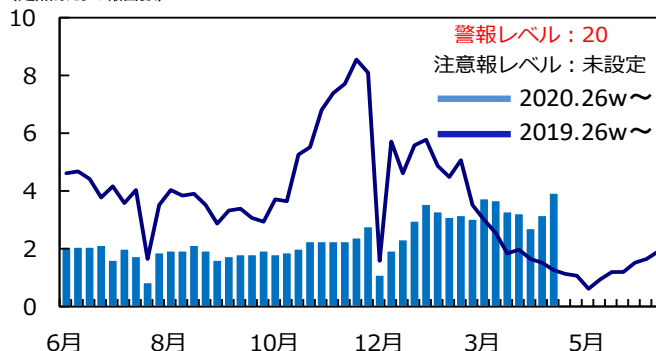


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第15週4月12日～4月18日）

第15週の順位	第14週の順位	感染症	2021年 第15週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第15週の 定点あたり 報告数	2021年第15週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.95	24%増	1.48	1歳_19%
2	2	RSウイルス感染症	3.19	54%増	0.14	1歳_39%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	25%増	0.83	4歳_16%
4	4	突発性発しん	0.35	8%増	0.30	1歳_54%
5	5	咽頭結膜熱	0.15	増減なし	0.10	1歳_40%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021年第10週まででインフルエンザのコメントを終了しました。

第15週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防（マスク着用、身体的距離の確保、手洗い、3密の回避）の徹底を

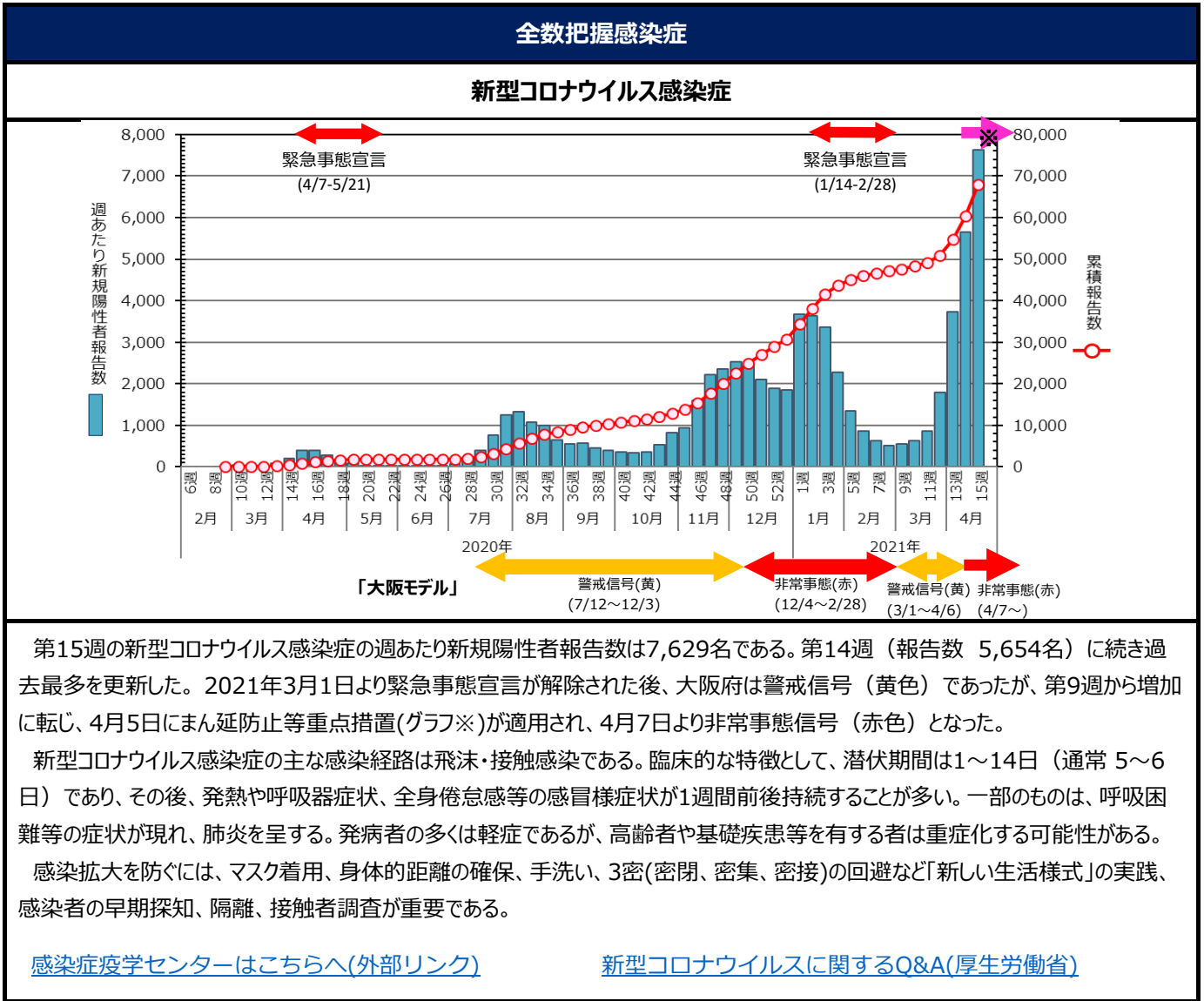


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第15週4月12日～4月18日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ【週報】発生動向調査> 全数報告 をご覧ください。)

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症 レジオネラ症(肺炎型)	1								1	19
5類感染症	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2						1	44
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	1			1				7
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1					2	21
	水痘(入院例)	1		1						5
	梅毒	7	1	1	1	1			3	188
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症	7,629									67,972
結核 (2021年2月分)	結核 新登録患者数：86名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 25名) (府内累積報告数 159名、内 肺・喀痰塗抹陽性 50名)									

(2021年4月20日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)